発展的評価項目１＜独自評価項目＞

～事業所におけるサービスの質の向上のためのシステムについての評価結果です～

事業所名：ユースフルデイりあくと

取り組み 排泄動作を諦めない　　**取り組み期間** ４年９月～10月

PDCA	取り組みの概略
「P」 目標と 実践計画	今までは本人のタイミングでトイレに行き、立ち上がりや移乗動作を含め、すべて自分で行っていた利用者が、車椅子からの立ち上がりに時間を要すようになってきた。その日の体調や疲労度によっては立ち上がれず、「ダメだ」「出来ない」と諦めて、トイレに行くことをためらい、リハビリパンツ内で排泄してしまうこともあった。職員の声掛けや介助も拒否し、「トイレに行けなくなると、りあくとを辞めなければいけないと」と言い、家族も心配している。そこで、本人自身で行える排泄方法を考え、本人の持っている力を最大限引き出しながら、一緒に取り組み、支援していくことにした。具体的には、①本人の困っていることや不安な気持ちを共有し、本人の心に寄り添った対応を行う、②自宅での排泄環境や様子を家族に聴取し、事業所で行える内容を考えていく、③立ち上がるために必要・有効な運動などについて理学療法士と相談し、本人の意向を踏まえながら、自主運動や座位姿勢の修正の提案を行うことなどを計画した。
「D」 計画の実践	計画の内容については、チームミーティングで周知を図った。また、本人に促す運動については、実施方法をケア記録に記載して、クラウド上で、職員が情報を共有した。
「C」 実践の評価	自主運動の提案に対して「やってみようか」と、前向きな言葉が聞かれるようになった。家庭ではすぐにトイレに行けない時は尿器を使用していることを確認した。尿器の使用は職員に賛否があったが、トイレとの併用を本人に提案したところ、「うん」という返事があった。座ったまま身体を伸ばしたり、ほぐすためのストレッチを、排泄や入浴前に行った。非麻痺側の関節可動域運動や、プッシュアップ動作強化のための上肢運動を利用日に毎回実施した。適切な座位姿勢を保持できるよう、職員が声を掛けることで、本人も意識しながら修正することができた。取り組みをすすめる中で、これまでより職員の声に耳を傾けるようになった。
「Ａ」 結果と 改定計画	本人に寄り添うことで、本人の意欲の向上につながっている。今後も、①排泄方法は本人の思いを聴きながら、状況に応じて尿器の使用を検討する、②方向転換を行いやすくするための下肢の自主運動内容について理学療法士に相談し、本人の意向を確認しながら一緒に実施する、③壁についたマグネットの移動や、ポンプを使用してボールをふくらませる上肢運動を継続しながら、他の方法や実施できることを専門職と一緒に考えていくことで、取り組みを継続することにした。

＜第三者評価コメント＞

利用者は、現在、意欲的に自主運動などに取り組んでいる。取り組みは継続するとのことで、今後の発展に期待する。

発展的評価項目２＜独自評価項目＞

～事業所におけるサービスの質の向上のためのシステムについての評価結果です～

事業所名：ユースフルデイりあくと

取り組み	最期の時まで、大好きな「りあくと」で過ごすことができるケアを考える	取り組み期間	4年9月

PDCA	取り組みの概略
「P」 目標と 実践計画	体力の低下が著しく、食事摂取量の低下による体重減少が著明な利用者がいる。利用者には急な血圧の低下により入浴できないなど、状態の悪化がみられている。家族は日中仕事で不在で、本人からは「一人で家にいたくない。みんなと会える「りあくと」に行きたい」との希望がある。「最期の時まで、大好きな「りあくと」で過ごすことができるケアを考える」ことをテーマにして取り組みを開始した。具体的には、①本人が好み、食べやすい食事やゼリーなどを提供する、②水分摂取の促しのため、本人が飲みやすい形態で提供する（必要に応じてトロミを使用する）、③血圧低下時はベッド臥床を行い急激な血圧低下を防ぐ、また併せて寒さが軽減するよう、ペットボトルにお湯を入れた簡易湯たんぽを用意し提供する、④入浴できない場合は本人と相談し清拭や足浴を行う、⑤思いを引き出せるよう、本人が好む会話やスキンシップを図りながら、不安な気持ちを共有し、本人の心に寄り添った対応を行うことを計画して実践した。
「D」 計画の実践	取り組みの経過は記録に残し、職員にはミーティングで周知を行った。また、事例検討を行い、本人の思いを予測した。
「C」 実践の評価	卵豆腐やゼリーを提供すると「食べやすい」と話していた。昼食メニューのあんこを食べて「おいしい」と言い、経口摂取ができていた。「温かい緑茶が飲みたい」と希望して、一口飲むたびに「あーおいしい」と喜んでいた。ベッド臥床を促すことにより血圧低下を防ぐことができた。簡易湯たんぽは「温かい」と喜んでいた。清拭や足浴は寒いからやらなくていいと話していた。本人が気付くように、職員が手を握りながら声を掛けると、笑みを浮かべながら「温かい」「ありがとう」の言葉を聞くことができた。
「A」 結果と 改定計画	その後、利用者は入院し逝去された。取り組みは終了したが、一方通行の支援ではなく、本人の気持ちに寄り添って考えたことにより、本人の本当の困りごとや思いを知ることができた。また、症状に合わせたケアも大切だが、その都度の言葉かけやスキンシップなどの触れ合いが大切であることを知ることができた。

＜第三者評価コメント＞

利用者の逝去により、取り組みは終わっている。医療的ケアが必要な方の受け入れを行っていることから、今後の取り組みに期待する。

課題抽出項目＜独自評価項目＞

～内容評価項目について、次への取り組みを事業所が検討した結果です～

事業所名：ユースフルデイりあくと

内容評価項目の＜A1：利用者一人ひとりに応じた一日の過ごし方ができるよう工夫している＞を取り上げ、今後の具体的な取り組みを検討した結果です。

事業所による取り組み

＜A1：利用者一人ひとりに応じた一日の過ごし方ができるよう工夫している＞	自己評価の内容	＜現在の活動の状況＞ 活動実践チームや参加実践チームを置き、満足度調査結果やアンケートなどで挙げられた意見や希望を踏まえ、自立支援環境の推進や楽しみや役割の拡充に向けた環境の整備や活動の企画・実施を行っている。日常的に行う各種機能訓練プログラムや活動クラブは、複数種類を準備し、参加について利用者が決定できるよう案内をしている。利用者の支援計画を確認し、介護支援専門員とも連携を図りながら、事業所内での荷物移動や片付け、コップ洗いなど積極的な役割作りを進めたり、事業所外でボランティアとして活動することが継続できるよう環境作りを含めた支援を行っている。また、RUN 伴やアルツハイマーデー、SDGs 活動などの地域イベントについて、掲示物やお知らせ、広報誌を作成して広報や案内を行い、利用者と一緒に地域参画できるような機会作りを行っている。 ＜振り返りの内容＞ ①利用者が「やりたい」「取り組みたい」ともっと自然に思ってもらえるような活動が少ないかもしれない。 ②利用者の自宅内の生活支援だけではなく、地域の中での生活という部分にもより目を向けた支援や取り組みを拡充していく必要があるのではないか。 ③事業所で他利用者や職員のために、色々な制作物を作ったり、知識や技術を教えてくれる利用者が結構いらっしゃる。事業所外でも、そういったことを活かせる場を増やせると、利用者の支援だけでなく、地域支援にも繋がると思う。

	自己評価で気づいたことについての今後の具体的な取り組み	＜具体的な取り組み＞ ■取り組み１：利用者のこれまでの生活歴やそれぞれの思いなど、意識的なコミュニケーションを図らないと見えてこない部分のアセスメント力の強化を図っていく。 ＜１＞利用者の生活歴や趣味、嗜好、思いの部分の情報をチームで収集し、蓄積させていく。 ・アセスメント強化・質の向上に向けたドライブミーティングを発足した。現在もセンター方式のシートは活用しているが、空欄のまま経過している箇所もあるため、チーム全体で共用していくために、再度シートの活用に関して、１２月中に伝達会および発信・周知を行う。 ・研修修了者を中心に、担当者と連携し、トーキングマットを活用したコミュニケーションを実践した。今後も継続し事例数を増やしていく。 ＜２＞利用者ごとの興味関心チェックリストの内容を改めて個別に把握し、利用者の意欲や能動性が引き出せるような楽しみに向けた内容や、仲間と一緒に取り組みたいと思えるような社会参加の内容を再企画し、来年度の活動計画を立案する。 ・各担当者および活動実践・参加実践チームと連携を図る。１月中に抽出作業を行い、２月中旬までに活動企画を作成し、２月の質向上委員会で全体発表・共有を行う。 ■取り組み２：地域での活動機会や場所を拡大すると共に、利用者と一緒に行うことが地域支援の還元に繋がるような活動を企画していく。 ＜１＞法人外だが、近隣エリアで連携出来るような所がないか、リサーチしていく。 ・近隣郵便局と連携を取り、郵便局の中に掲示・展示ブースを設けてもらうことが可能となった。現在も、利用者と貼り絵やちぎり絵などでカレンダー作成を行っている。今後、地域掲示用のカレンダーを毎月作成し、利用者と一緒に持ち込みと掲示を行っていく。 ・既に行っている地域活動の担当者と連携を取り、新たな所に繋がりを作ってもらうことが可能となった。既存の地域活動も継続しつつ、今後、近隣の幼稚園と連携を図っていき、利用者と出来ることで訪問先や地域への還元に繋がるような活動内容の企画を進める。 ＜２＞地区内で行っている行事へ参画していく。 ・近く、地域で実施している「どんど焼き」の実施予定がある。まずは同地区内で生活されている利用者や、これまでそういった地域行事に携わってきたような利用者、関心がある利用者と実際に参加し、地域での繋がり作りから始めていく。 ・他の地域内行事などについての情報収集や連携が行えるよう、来年度に向けて地域活動チームを発足し、窓口を作って活動の促進を図る。 ■取り組み３：地域活動機会を拡大していくに伴い、不安なく、積極的に活動が出来るよう、事業所外における緊急対応力の強化を図る。 ・緊急時対応については、これまで食事や入浴場面など、事業所内での対応を主に研修を行ってきたが、送迎車や訪問先、地域内など事業所外での状況を想定したシミュレーション研修を実施する。安全委員会・研修チームと連携を図り、構想を来年度計画に反映し、２月質向上委員会で全体発表・共有を行う。

＜第三者評価コメント＞

利用者一人ひとりに応じた一日の過ごし方ができるように工夫しているという項目に対し、今後の具体的な取り組み内容を決めている。内容は次年度の計画につなげている。今後の取り組みの発展に期待する。